

林業ミニ情報 No.158

令和2年3月

- 1 第1回村松晴嵐「クロマツ林」リジェネプロジェクト
～クロマツ植樹体験～が開催される!! (森林環境譲与税を活用)1
(水戸林業指導所 吉成)
- 2 ひたちなか市立市毛小学校で里帰りアカマツが植樹される!!
(林木育種センターから里帰りした学校のシンボル)3
(水戸林業指導所 山口)
- 3 地元小学校の児童たちが海岸林内にマツを植樹5
(鉾田林業指導所 丹羽)

タイトル	第1回村松晴嵐「クロマツ林」リジェネプロジェクト ～クロマツ植樹体験～が開催される!! (森林環境譲与税を活用)
年月日	令和2年2月15日(土)
場所	東海村村松地内(村松虚空蔵堂客殿及び村松晴嵐の碑周辺)
内容	<p>この植樹体験は、東海村が森林環境譲与税を活用し、副村長を座長とする「東海村松くい虫防除対策連絡会」が実行委員となり、村、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構原子力科学研究所、東海村愛林組合の共催による、クロマツ海岸林再生のための植樹体験イベントです。今回イベント名称に用いた「リジェネ」とは【regenerate[動] regeneration[名]】という英語から来ています。意味は、再生・復活。徐々に再生していくというイメージということで、長い年月をかけて徐々に、クロマツ林を元の姿に再生していくことがこのプロジェクトの目標です。</p> <p>当日は、東海村長はじめ、東海村議会議長、東海村教育長、東海村観光協会長、村松虚空蔵堂代表、茨城県県央農林事務所次長兼企画調整部門長等来賓のほか、地元照沼小学校の児童及び保護者、公募での参加者、関係者の総勢約百名が参加しました。</p> <p>第1部の式典では、主催者及び来賓あいさつの後、村松虚空蔵堂客殿で「東海村における砂防林造成の歴史」と題して勉強会が行われました。</p> <p>東海村農業政策課職員が講師となり、植樹会場の地村松は、日本の海岸造林発祥の地という歴史があり、日本を代表する白砂青松の海岸林として知られていることを説明しました。また、のちの東京大学教授河田博士が、大正14年ごろから調査を始め、昭和28年ごろまでの三十有余年の長きにわたり、海岸砂地にクロマツを植栽するという涙ぐましい努力を、地域住民の方々と営々続けてきたことを、愛林組合の深谷さんとの問答形式で、その当時の苦労話も交えながら、紹介しました。</p> <p>そして今、その素晴らしい海岸林が松くい虫の被害に遭い、消滅の危機に瀕していること、いま、海岸林の再生のためになすべきこと、何ができるかなどを学びました。</p> <p>第2部は、当指導所職員が植樹の方法を説明した後、植樹体験会場に移動し、村長、原子力研究所長、議長、教育長、観光協会長、村松虚空蔵堂代表による記念植樹が行われました。</p> <p>その後、参加者全員で抵抗性クロマツのコンテナ苗86本を植樹しました。</p>



勉強会の様子



記念植樹の様子



植樹体験の様子



植樹後のクロマツ苗木

普及成果

参加した児童からは、「クロマツを植えるのは難しかったけど、大きく育つことを思ったらうれしかった。貴重な体験ができた。」「家が村松晴嵐の碑に近いので、ちょくちょく見に来てマツの成長を確認したい。」「マツが無くなった箇所を見て悲しくなったが、マツを植えて育った姿を想像したらワクワクした。」など、マツの無くなった現状を憂いながらも、自分たちの植樹活動をとおして、クロマツ林を守ることに對する自覚と責任が芽生えているのを感じました。

当指導所では、このような地域住民と一体となった森林整備活動等の精力的な取組に対し引き続き支援することで、広く一般県民の森林整備に對する意識の醸成を図ってまいります。

タイトル	ひたちなか市立市毛小学校で里帰りアカマツが植樹される!! (林木育種センターから里帰りした学校のシンボル)
年月日	令和2年2月20日(木), 25日(火)
場所	ひたちなか市立市毛小学校 校庭
内容	<p>ひたちなか市立市毛小学校(校長:橋本浩志,児童数540名)では,校庭のアカマツが衰弱してきたことから,林木育種センターの「林木遺伝子銀行110番」を活用し,クローン苗木を作成していただきました。そして,里帰りしていた苗木を,去る2月20日に校庭に植樹しました。</p> <p>「桜明るく松清き」と校歌に歌われる学校のシンボルであったこのアカマツは,樹高20m程度,直径90cm程度の巨木でした。しかし,腐朽による衰弱で枯損及び倒木する可能性が高まったことから,平成29年5月に伐倒されましたが,地域住民の要望等を踏まえ,林木育種センターに接ぎ木による増殖をお願いしていました。</p> <p>育成に成功した「市毛小のアカマツ」苗木は,令和元年9月17日の第78回創立記念集会の席上で,全校児童が見守る中,里帰りしました。</p> <p>当指導所では,学校長から,鉢植えとなっているアカマツを今年度中に校庭の一角に植樹したいので,場所や植樹時期,植樹方法等について指導して欲しい旨の依頼を受けました。</p> <p>まず,8か所の候補地から,児童たちの踏圧やボール等による損傷,倒木の危険性の有無,日当たり等気象条件,地域のシンボルとしての位置,児童たちの動線,大きくなった時の周囲の状況など,様々な観点から候補地の絞り込みを行いました。</p> <p>そして,2月5日に,植樹場所の現地検討を行い,学校正門近くの樹木園内に決定しました。倒木や根腐れの危険性も勘案して,2月12日に,植穴の土壌を調べたところ,粘土層がなく土壌改良の必要はないことを確認しました。また,その後,鉢植えのアカマツの生育状況等も確認しました。</p> <p>2月20日,植樹の当日には,1年生から6年生の各クラスの児童代表18名を対象に,当指導所職員が,伐られてしまったアカマツの話や,里帰りした苗木がどのように管理され,植えられる箇所がどのように決まったかなどのお話をしました。その後,鉢植えの根系状況を確認し,根切り等の処理を行った後,全員で里帰りしたアカマツ苗木を丁寧に植え,散水して完了しました。</p> <p>2月25日には,全校児童集会の席上,「里帰りしたアカマツの記念植樹報告会」が行われ,市毛小学校はもとより地域のシンボルとして,全員で見守っていくことを確認しました。</p>



記念植樹（里帰り）の様子



植樹後のアカマツ苗木



普及成果

参加した児童からは、「大きなアカマツの木はなくなったけど、小さなアカマツを大切に育てていきたい。」「里帰りしたアカマツが大きく育つを見守ってきたい。」など、里帰りしたアカマツを大切に育て、見守っていこうとする感情が広がっているのを感じました。

当指導所では、学校のシンボルであった木の後継樹の植樹という貴重な指導の機会に恵まれ、学校のシンボル、地域のシンボルを次代に伝える一端を担えたことに感謝するとともに、今後とも教育の現場での指導に対し積極的に関わってまいります。

R元.林業ミニ情報(令和2年3月)

(鉾田林業指導所 丹羽 忠邦)

<p>タイトル</p>	<p>地元小学校の児童たちが海岸林内にマツを植樹</p>
<p>年月日</p>	<p>令和2年2月14日(金)</p>
<p>場所</p>	<p>神栖市矢田部地内</p>
<p>内容</p>	<p>神栖市波崎の矢田部海岸において、茨城県庭園樹協会鹿行支部主催の植樹祭が開催されました。</p> <p>この取組は、同支部が、海岸部の生活環境を守っている海岸防災林が、松くい虫被害等により衰退している現状を受け、地域の子どもたちが海岸防災林ときれいな海を自らの手で次世代へと繋げるという思いを持つことを願って企画しました。当日は、地元のやたべ土合小学校3年生の児童30名が招待され、当指導所も参加して、植樹の指導と海岸防災林の役割等についての講義を行いました。</p> <p>当日は、霧が発生していましたが、気温も程よく恵まれた天候の中、神栖市長及び市教育長による記念植樹が行われた後、児童たちが、クロマツの苗木約150本をスコップで丁寧に植え付けました。</p> <p>植樹後は、皆で砂丘に登り、当指導所の職員が海岸防災林の歴史や機能、松くい虫被害の経過等について説明して、児童たちに海岸防災林の機能等を学んでいただきました。説明の後には、多くの質問とともに、「砂丘の上と後ろで風が全然違う。」「植えたマツが大きくなるのを見守りたい。」などの感想を聞くことができました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <p data-bbox="544 1720 756 1751">植樹活動の様子</p> <p data-bbox="959 1720 1374 1751">海岸防災林の機能について説明</p> </div>
<p>普及成果</p>	<p>海からの潮風や飛砂から生活環境を守っている海岸防災林は、現在、その厳しい環境や松くい虫被害等により、機能の維持が困難になりつつあるため、海岸林の保全に対する地域住民の関心が高まっております。</p> <p>当指導所では、今後もこのような地域の取組に対し、引き続き支援してまいります。</p>